

研究の概要

足利市立東山小学校

1 研究主題

学びの心を育み、認め合いながら、ねばり強く取り組もうとする児童の育成
～ 子どもの不安や悩みを受けとめ、共に生きようとする教師 ～

2 基本的な考え方

本校は一昨年度の平成18年度から3カ年、足利市教育委員会より人権教育研究学校の指定を受け、「足利市の学校における人権教育推進の方策」に則り、教師の「人権に対する認識の深まり」を前提にした、「教育の本質」にかかわる丁寧な実践を積み上げていく研究に取り組んでいる。

本校では、学校教育目標の具現を図るため、学校課題でもある「学びの心を育み、認め合いながら、ねばり強く取り組もうとする児童の育成」を研究主題に掲げた。

このような児童を育成するための「教育の本質」にかかわる丁寧な実践の積み上げは、教師が児童一人一人と、どのように向き合うことができるかに大きくかかわってくる。

今日の前にいる子どもたちは、様々な不安や悩み、思いや願いを抱きながら学校生活を送っている。その不安や悩みが何なのか、思いや願いが何なのか分からないことが多い。子どもたちの中には、学習が理解できずに悩んでいる子もいるだろう。友達関係のことで悩んでいる子もいるだろう。そして、自分ではどうすることもできないことで悩んでいる子もいるだろう。私たち教師は、今日の前にいる「この子」のことを、どれだけ分かっているのだろうか。どれだけ分かろうと努力をしているのだろうか。

そのため、教師一人一人が自らの教育実践を見つめ直し、自らの不完全さを認識していくことが必要なのである。

このような子どものことを深く理解しようとする教師の姿が、子どもとの信頼関係の深まりにつながっていくものである。「自分のことを本気で心配してくれる先生がいる」「一緒に悩んでくれる先生がいる」「自分のことを分かってくれる先生がいる」という思いが、たとえ自分ではどうすることもできないような困難なことに出会ってしまったとしても、「頑張ってみようかな」という思いにつながっていくものであると考えている。

そこで本校では、「子どもの不安や悩みを受けとめ、共に生きようとする教師」を副主題に掲げ、このような教師を目指していく実践を通して、研究主題に掲げたような児童を育成していきたいと考えた。

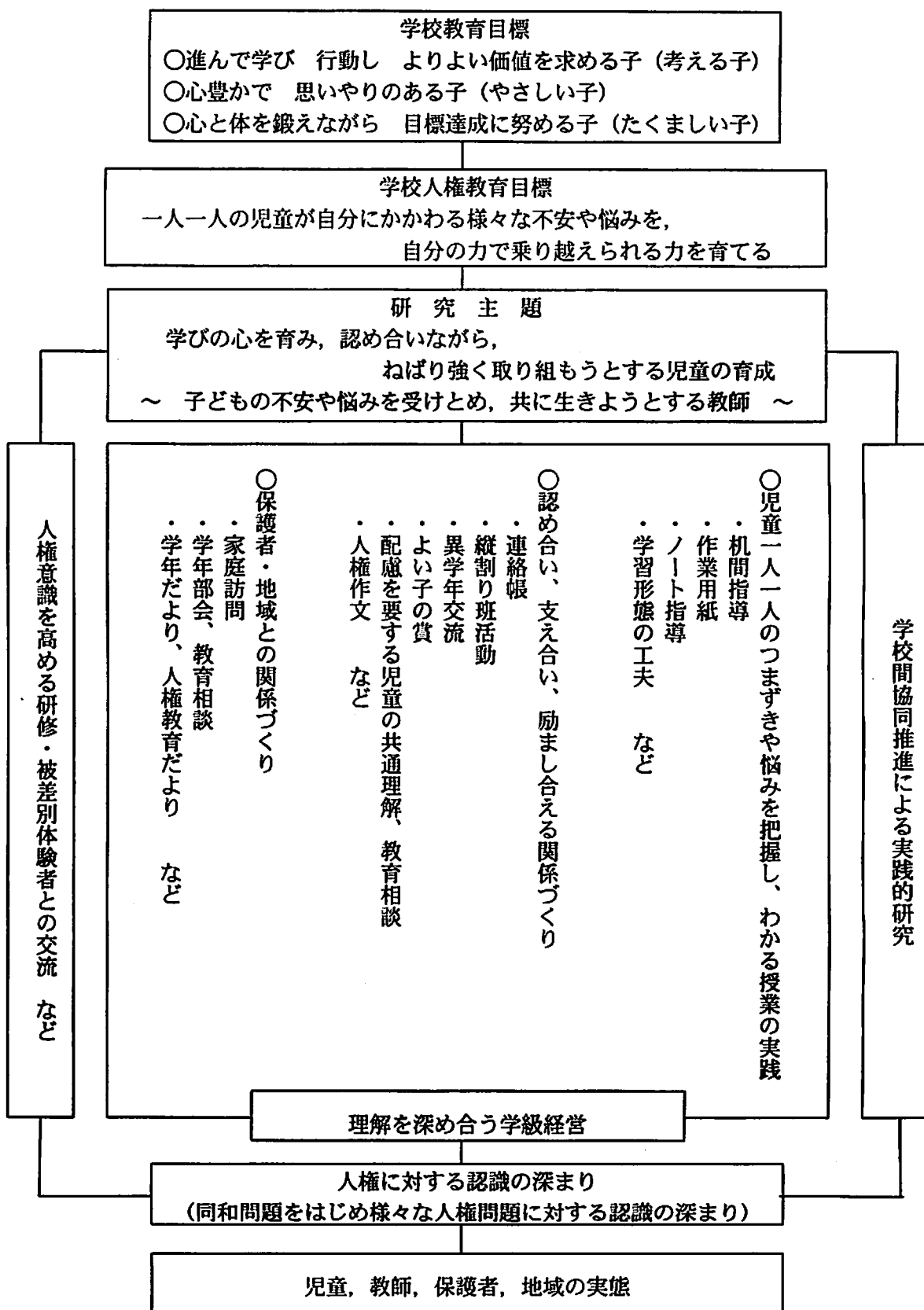
今日の前にいる児童の不安や悩みを受けとめていく過程は、その児童の心に教師自らが近づこうとする過程に他ならない。

例えば、学習指導や学級経営においても、「この子」は何につまずいているのか、なぜつまずいているのか、何を悩んでいるのか、どのような思いを抱いているのかなどを把握することで、授業の組み立てや「この子」を見る教師の視線が変わってくる。また、学校と家庭が一体となって児童を支え励ましていくためには、保護者の不安や悩み、思いや願いを理解することも重要である。

私たち教師にとって大切なことは、今日の前にいる児童のことを深く理解しようとする真摯な姿勢と、不安や悩みを語り合えるための児童や保護者との信頼関係である。

そのため、本校の研究は、「把握」と「関係づくり」をキーワードにして、教師一人一人が児童との具体的なかかわりを通じた実践に努めることにした。

3 推進構想図



4 研究計画

<1年次 平成18年度>

○児童の心に寄り添い、不安や悩みに気付こうとする教師

- ・体制づくり
- ・研究主題、副主題の設定と研究概要の作成
- ・実態把握
- ・チェックポイントの作成、振り返り
- ・授業の実践（算数、社会、道徳）

<2年次 平成19年度>

○積極的に保護者とかかわり、理解し合おうとする教師

- ・1年次の研究の見直し
- ・体制、組織の見直し
- ・研究主題に基づく授業研究
- ・実態の変容の把握と解決の研究
- ・保護者への啓発とよりよい関係づくりの工夫、改善
- ・チェックポイントの活用と見直し

<3年次 平成20年度>

○児童や保護者、地域から学び、自己を高めようとする教師

- ・2年次の研究の継続と深まり
- ・人権教育を基盤に据えた本校の教育活動の工夫、改善
- ・研究主題に基づく授業研究
- ・実態の変容の把握と解決の研究
- ・保護者及び地域への啓発とよりよい関係づくりの工夫、改善
- ・チェックポイントの活用と見直し
- ・研究のまとめ

5 研究推進計画<3年次>

回	月 日	曜	研究内容	備考
1	4月 4日	金	昨年度の研究の確認と今後の方向性	
2	4月30日	水	保護者啓発にかかわる研修	
3	5月 7日	水	支援を要する児童についての共通理解	
4	6月11日	水	研究授業（個別・国語）	学校間協同推進
5	6月18日	水	研究授業（5年・国語）	
6	6月21日	土	人権問題・同和問題講演会	PTA主催
7	6月27日	金	研究授業（5年・国語）	学校間協同推進
8	7月8日～9日	休	人権教育推進校実情調査（1泊2日）	
9	7月23日	水	人間関係づくりに関する研修（1）	
10	7月30日	水	被差別体験者との交流	
11	7月30日	水	同和問題に直接かかわる内容の指導についての研修	
12	8月 6日	水	指導案検討（1）及び人間関係づくりに関する研修（2）	
13	8月27日	水	指導案検討（2）	

14	9月10日	水	研究授業(4年・道徳)	
15	9月17日	水	研究授業(4年・道徳)	学校間協同推進
16	9月22日	月	研究授業(1年・国語)	学校間協同推進
17	10月1日	水	研究の確認	
18	10月15日	水	研究授業(3年・道徳)	
19	10月22日	水	研究授業(2年・国語)	
20	10月24日	金	研究授業(6年・社会)	
21	11月7日	金	研究授業(2年・国語) " (3年・道徳) " (6年・社会)	学校間協同推進
22	1月28日	水	研究授業(5年・算数)	
23	2月4日	水	支援を要する児童についての共通理解	
24	2月9日	月	精神医学的視点から見た指導の研修	
25	2月25日	水	今年度のまとめ	
	毎月		よい子の賞	
	月1回程度		スマイル班(縦割り班)活動	
	毎月		学年だより等の発行(「いきいき東山の子」コーナー)	
	5月		合同民児協での本校の人権教育の発表	
	5月		家庭訪問における保護者啓発	
	7月～10月		人権作文	
	夏季休業中		全家庭との教育相談	
	11月～12月		全児童との教育相談	
	12月2日		人権集会	
	12月		「家庭・家族で同和問題をはじめ様々な人権問題について語り合おう」の実践	
	随時		児童にかかわる情報交換	

6 研究副主題に迫るための考え方

学びの心を育み、認め合いながら、ねばり強く取り組もうとする児童の育成
～ 子どもの不安や悩みを受けとめ、共に生きようとする教師 ～



不安や悩みをもつ子どもと、その不安や悩みについて語り合うことができる教師の実践

「先生は、私のことを心配してくれる」
「先生は、私のことをわかってくれる」
「先生になら・・・」

先生と一緒に考えてくれる
先生と一緒に悩んでくれる
先生と一緒に・・・

<徹底的な「把握」と「関係づくり」の実践>

教師が意識して子どもを見つめていく

⇒ チェックポイントの活用

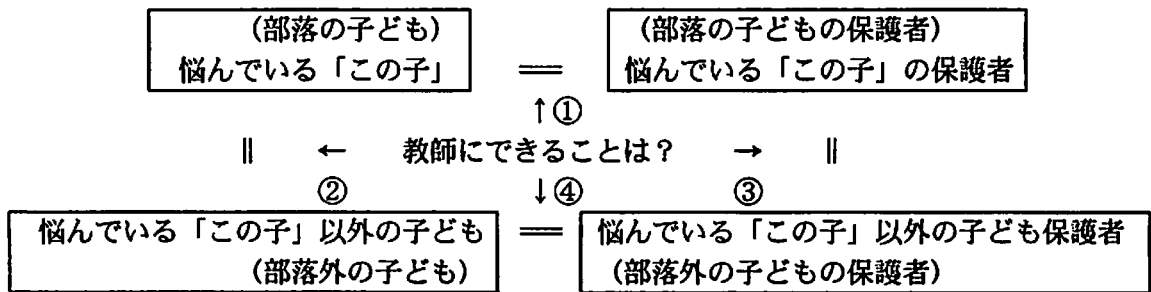
子どものことを見ているつもりにならない
子どものことを知っているつもりにならない
子どものことを分かっているつもりにならない

目の前にいる「この子」を意識してみつめ、「この子」との具体的なかかわりを通して、「この子」の何ができてきたのか。まだ見えないのか。 ⇒ **事実の集積**

「この子」の不安や悩み、思いや願い

「この子」とのかかわりを通して把握（気づき）

「この子」の保護者とかかわりを通して把握（気づき）



これらの実践をする上で大切なことは、児童一人一人を深く見つめていこうとする教師の意識である。

教師が意識して児童を見つめていくために、研究1年次に、「東山小学校のチェックポイント」を作成し、教師一人一人の児童との具体的な実践を通して「チェックポイント」の見直しを随時行っている。

このように、今日の目の前の「この子」を意識して見つめ、「この子」との具体的なかかわりを通して、「この子」の何ができてきたのか、まだ見えないのかを、教師が自分自身に問いかけていく実践が、研究副主題に迫る研究である。

また、教師の人権に対する認識を深めるために、児童一人一人に着目した教師間の日常の話し合いは勿論のことであるが、本校の実態から特に、同和問題（1年次～3年次）・外国人問題（2年次）に対する認識を深める研修を位置付けた。

本校では、このような研究実践を通して、「子どもの不安や悩みを受けとめ、共に生きようとする教師」を目指し、そのような教師の姿を通して「学びの心を育み、認め合いながら、ねばり強く取り組もうとする児童の育成」を図っている。

7 人権に対する認識を深めるための研修

教師の人権に対する認識を深めるために、特に本校の実態から、「同和問題の認識を深める研修」（1年次～3年次）と「外国人問題の認識を深める研修」（2年次）を実施した。

（1）同和問題の認識を深める研修（3年次）

教師の「同和問題の認識を深める研修」では、地域福祉会館を会場に、市教委の指導のもとに部落解放同盟栃木県連合会足利市協議会の方々を講師に招き、以下の3つの視点にもとづき小グループで話し合いを行った。

- 部落差別の解消のためにしてきた努力をもっと知りたい。
- 足利市を中心とした部落差別の実態についてもっと知りたい。
- 母親としての思いをもっと知りたい。

＜先生方の感想＞（一部抜粋）

- ・これだけ努力をし、解放のための活動が行われているにもかかわらず、今もインターネット上で差別的な書き込みが行われたり、戸籍が高値で売買されたりしているとお話を伺い、人の心の闇の部分を感じながら憤りを覚えました。人が作った差別をなくすのは人の役割という言葉通り、差別をなくしていけるように自分の人権感覚を高めていきたいと思いました。

- ・結婚差別については、ここ数年ほとんど聞いていないとのことで、これまでの足利市の同和教育（人権教育）の積み重ねの成果だと思ってお話しされていました。また、「寝た子を起すな」については、「寝た子は必ず起きる」「どのように起こしてあげるかが重要である（発達段階に応じた指導が大切である）」という考え方が印象的でした。日々の教育活動において、同和問題についてより考えを深めていきたいと思えます。
- ・「寝た子は必ず起きる。一生の中で必ずこの問題に直面する（差別者、被差別者を問わず）。その時に、正しい知識と見解をもっていなければならない。」とのメッセージは、とても重く感じました。
- ・私も少し前までは、「同和問題による差別は、時間がたてば少しずつ無くなるだろう。」と思っていた。しかし、正しい認識をもたないために、間違っただけの情報に触れた時に簡単に信じてしまい、さらなる差別を生むのだと分かった。石井さんの『寝た子を起すな。自然に無くなるだろう。』というなら、もうとっくに差別が無くなっているだろう。」という言葉聞いて、「なるほどそうだな。」と思った。これまで何十年もこの問題に取り組み、法律まであるのに、なぜ差別が無くならないのか。差別事件を起こした人たちは、みんな自分のストレスを他人に向ける、自分と違う人を認めないようにみえる。正しい知識を教えることと、他人を認め我慢できる子どもを育てることが大切なかもしれないと感じた。
- ・今回の研修をとおして、同和問題の一面に気づきました。中心となって活動されている方の中にも、一番身近であるはずのご家族（特にお子さん）とは、この問題について多くを語り合っていないということです。我が子だからこそ伝えることができない、そんな思いに気づいた時、部落差別という問題の大きさを改めて感じました。
- ・子どもたちへの指導において、相手の立場になって考えることができること、人はみんな人として尊敬され尊重される存在であり平等であること、またそうしたことを誰もじゃましたり傷つけたりしてはいけないことを、繰り返しあらゆる教育活動を通して教えていくことが、小さな力しかない私にもできることかなと思えます。

（２）外国人問題の認識を深める研修（２年次）

教師の「外国人問題の認識を深める研修」では、学校を会場に、本校にも勤務していただいている足利市教育委員会外国人児童生徒教育専門指導員を講師に招き、以下の視点を中心に話し合いを行った。

①自身の経験から

- ・経験した差別事象について
- ・身のまわりにある外国人問題
- ・外国人であるがゆえの生活面での苦勞
- ・子どもを育てる上で大変だったことや困ったこと など

②外国人児童生徒教育専門指導員の経験から

- ・外国人児童生徒の悩み
- ・外国人児童生徒の抱えている不安や学校への希望、保護者の不安や学校への希望
- ・外国人児童生徒の気持ちや、それに対応するための教師のあり方
- ・クラス内に全く日本語が話せない児童がいた場合の支援 など

＜先生方の感想＞（一部抜粋）

- ・講師自身の経験から、PTA活動での保護者との関わりや地域活動での近所の人たちとの関わりなど、具体的な話を初めて直接聞くことができ、今まで気付かなかったことを知れて、外国人児童の保護者の思いに少し近づけたような気がした。
- ・どのようなことに不安を抱き、どのようなことを願っているのかなど、外国人児童や保護者の立場から物事を考えていくことが大切であることを、改めて感じた。
- ・日本語が理解できない親をもつ外国人児童の具体的な苦勞と不安がわかった。
- ・外国人問題は、今日の前にいる児童に直接かかわっている問題であることを再認識することができた。

8 児童一人一人のつまずきや悩みを把握し、わかる授業の実践

「児童一人一人のつまずきや悩みを把握し、わかる授業の実践」の研究を深めるため、1年次は1回、2年次は13回の研究授業及び授業研究会を実施し、3年次も13回の実施を予定している。

研究授業の指導案の作成等については、当該学年を中心とした各ブロックで検討した。

また、2年次の第8回の授業研究会より、研究を確認していくために「指導内容・指導方法」及び「人間関係づくり」の2つの視点に分けて、それぞれの成果と課題についての検証を行い、具体的な教師の姿を全員で見つめていった。その際、ブレインストーミングの技法（創造的思考を伸ばす集団思考の技術）とKJ法を授業研究会に取り入れた話し合いを行い、成果と課題を積み上げていった。

○授業の実際

（上段：〈主な成果〉，下段：〈主な課題〉）

<1年次>

週	年	教科等	転記、題名	指導内容・指導方法	人間関係づくり
1	6	社会	日本国憲法には、どんな特色があるの	・導入で視覚に訴える資料やアンケート結果を提示したことで、学習内容を意識させることができた。	・児童のつぶやきを取り上げようとする教師の姿が見られた。
				・児童の発言や考える時間の確保 ・授業の組み立ての工夫	・個々の学習状況の把握の仕方

<2年次>

週	年	教科等	転記、題名	指導内容・指導方法	人間関係づくり
1 ・ 2	2	道徳	動植物にもやさしい心で	・ワークシートを活用し、活動の場を意図的に設定した。	・机間指導による個に応じた声かけがなされた。
				・アンケートを用いて、実態把握を行った。	・意図的指名による意欲づけが効果的だった。
3 ・ 4	5	国語	話の組み立てや言葉づかいを考えてたずねよう	・心のノートを活用し、価値の一般化を図った。	・自分の考えの伝え方（発表、書くなど）
				・資料の準備と効果的な板書が行われた。	
				・役割演技の取り入れ方の工夫	・座席表に基づき、意図的な机間指導が行われた。
				・発問の工夫 ・学び合いの工夫	
				・ワークシートやアドバイスカードを活用し、活動の場を意図的に設定した。	
				・役割分担したグループを活用するなど、学習形態が工夫されていた。	
				・発表している人の方に体を向けて顔を見ながらの聞き方が実践されていた。	
				・相づちをうちながらの聞き方 ・時間配分	

5 ・ 6	3	算数	あまりのあるわり算	<ul style="list-style-type: none"> ・分担を固定しないT1とT2の連携が図られた。 ・事前テストを実施し、一人一人の実態把握に努めた。 ・半具体物を提示することで、児童の思考を援助した。 ・ワークシートを活用し、個々が活動の場を意図的に設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T1とT2の連携による意図的な机間指導が行われ、一人一人のつまずきの把握に努めた。 ・支援を要する児童が活躍する場を意図的に設けた。
				<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しをもたせるための提示の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童以外の児童への支援の仕方
7	個	算数	数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を提示したり、触れさせたりすることで、学習への意欲づけが図られた。 ・TTによる計画的な指導がなされた。 ・生活に結びついた内容で学習することで、理解が深まった。 ・児童同士による教え合いを通して、学習の確認が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返らせながらの支援が行われ、学習の定着が図られた。 ・一人一人の実態を把握し、個に応じた適切な言葉かけがなされた。
				<ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容と与え方の工夫 ・問題づくりの活動の支援の仕方 ・具体物を問題に結びつける工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持続させるための、一人一人への支援のあり方
8 ・ 9	4	道徳	努力することは気持ちいい	<ul style="list-style-type: none"> ・導入でのねらいの提示の仕方が簡潔であり、はっきりとした価値の方向づけがなされた。 ・価値に迫るために有効な役割演技や場面絵が活用された。 ・自分を振り返るために、心のノートが活用されていた。 ・児童にわかりやすい発問がなされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席表を通して児童一人一人を把握した上で、児童の自信につながる賞賛をしていた。 ・副読本にふりがなをふるなど、支援を要する児童へのきめ細かな配慮がなされていた。
				<ul style="list-style-type: none"> ・発問の精選と待つゆとり ・ワークシートの工夫 ・ポイントを絞った板書の工夫 ・意図的な指名 ・学び合いでの考えの広がり 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼名の仕方
10 ・ 11	1	国語	よく見てかこう	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な教材研究により、意欲がもてる発問の工夫がみられた。 ・資料が児童にわかりやすく提示され、学習の深まりにつながった。 ・作業用紙を活用し、活動の場を意図的に設定した。 ・わかりやすい説明と集中させる話し方の工夫がみられた。 ・ペア学習を用いた学習形態の工夫がなされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的な机間指導を行い、一人一人の学習のつまずきの把握に努めた。 ・支援を要する児童に対し、平仮名表を活用するなどのきめ細かな支援がなされた。 ・クラス全体で友達のよさを認めることができる雰囲気があった。

				<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習を確認するために、教育機器を効果的に活用した。 ・児童の発表の時間を確保するための、時間配分の工夫 ・きちんとした言葉での話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中が切れてしまった児童への支援のあり方
12 ・ 13	6	社会	日本国憲法には、どんな特色があるの	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習の時間の確保と、人権を身近なものとして捉えるための展開の工夫がなされていた。 ・発問が精選されたていた。 ・児童同士の練り合いの場の確保 ・用語を理解させる教材研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達の話をよく聞き、課題をよく考えていた児童の姿が見られた。 ・支援を要する児童への関わり方 ・学習が進まない児童への声かけ

<3年次>

回数	単	教科等	単元、主題	指導内容・指導方法	人間関係づくり
1	個	国語	きちんと読もう、しっかり聞こう	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ教材を扱った授業であったが、「みんなで勉強して楽しかった。」の声があり、授業が成功した。 ・音読も大きな声でしっかりできていた。 ・教師の話や友達の意見の聴き方がよくなってきている。 ・教材に身近な題材の導入 ・聴く際のうなづく動作 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合う場の設定がなされていた。 ・一人一人への声かけが丁寧に行われていた。 ・机間指導を通して、一人一人の学習状況を把握していた。 ・一人一人の更なる理解
2 ・ 3	5	国語	調べたことを整理して書こう	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてが明確に提示され、授業の深まりがみられた。 ・教師の待つ時間、児童の考える時間が確保されていた。 ・児童のつぶやきを効果的に取り上げていた。 ・単元の計画表や自作資料が効果的だった。 ・自分の意見と友達の意見の比較 ・提示資料の文字の大きさ ・見やすいレポートよりも内容を重視 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴く力、意見を言う力がある。 ・児童を理解したうえでの意図的な指名が行われていた。 ・机間指導を通して、一人一人の学習状況を把握していた。 ・安心して言える雰囲気がある。 ・児童のつぶやきの取り上げ方
4 ・ 5	4	道徳	美しい心	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態を工夫し、聴く姿勢がしっかりできていた。 ・大型絵本が効果的だった。 ・児童が「考える」授業を展開できた。 ・教師が児童の意見を受けとめ、児童同士が互いの意見を聴き合っていた。 ・考えを深めるための指名の仕方や発問の工夫（発問数、中心発問等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業用紙への記入の際など、学習状況を把握した上での、個々に応じた声かけがなされていた。 ・教師の声かけ後、笑顔で活動を始める児童が見られた。 ・友達同士で意見を受けとめ合う雰囲気がある。

				<ul style="list-style-type: none"> ・発問に際しての言葉、語尾の選択の研究 	
6	1	国語	くらべてよもう	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の知りたい、書きたい意欲を大切に授業が展開された。 ・児童の考える姿があった。 ・本時のめあてや活動の手順、キーワードが、明確に示されていた。 ・T1とT2の連携がなされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の児童の話をよく聴く姿が見られた。 ・学習形態を工夫し（グループ学習）、児童同士で意見を言い合ったり、教え合ったりしていた。 ・児童たちのグループ学習においては、教師が仲介役となり個々の学習状況を把握しながら声かけを行っていた。
				<ul style="list-style-type: none"> ・提示資料の視覚に訴える提示の仕方 ・自作資料の分量が多く、読み取りが大変 	
7 ・ 8	2	国語	ようすを考えて読もう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもとにして、たくさんサイドラインを引いたり、発表したりすることができた。 ・読み深める学習が展開できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の目線まで下げて支援していた。 ・ホッとできる授業が展開された。
				<ul style="list-style-type: none"> ・心情曲線で意見が分かれたときの扱い方 ・話し合いのポイントの精選 ・友達の意見の聞き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「発表したい」という気持ちの汲み取り方
9 ・ 10	3	道徳	心のキャッチボール	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が主人公の心情を考えようとしていた。 ・板書で矢印を効果的に用いることで、心情の変化がわかりやすく表現されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を通して、子どもと笑顔で接している教師の姿があった。 ・教師と児童が分かり合おうとしている。
					<ul style="list-style-type: none"> ・児童のうなずき等の反応の把握 ・机間指導の時間の確保
11 ・ 12	6	社会	日本は世界へどう歩み出したの	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に自主的な調べ学習を取り入れたことにより、ワークシートへの書き込みがスムーズにいった。 ・板書が工夫され、わかりやすくまとめられていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で個に応じた意図的な声かけを行い、教師と児童が一緒に考える姿があった。 ・児童が安心した様子で授業を受けていた。
				<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と時間との関係 ・個人の思考から共通の思考へ 	
13	5	算数	平行四辺形や三角形の面積	1月28日（水）実施予定	

<成果>

○研究を上学年ブロック、下学年ブロックで取り組み、学年で同じ内容を事前に展開することで、研究を深めることができ、学習のねらいに迫るよりよい授業を展開することができた。

○「把握」と「関係づくり」をキーワードとして研究を進めるとともに、KJ法を研究会に取り入れることで活発な意見交換が行われ、研究が深まってきている。

○指導内容・指導方法について

- ・ 座席表を活用することで、児童の実態把握が深まった。
- ・ 発問、作業用紙、提示資料などの工夫により、学習のねらいが達成できた。
- ・ 学習形態の工夫により、学び合いが見られるようになってきた。

○人間関係づくり

- ・ 日常のかかわりの中で児童理解に努め、把握したことを学習に生かし支援することができるようになってきた。
- ・ 児童のことを分かっているつもりにならず、常にチェックポイントを意識しながら児童理解に努めてきた。
- ・ 友達の発言をしっかりと聴いたり、自然に拍手がわいたりするなど、雰囲気の良い学級づくりに努めてきた。

<課題>

○学年間で同じ内容を展開（学年が2クラスの場合は、同じ題材で2回の研究授業を実施）することで、国語・社会・算数では、学習進度にズレが生じてしまった。

○チェックポイントや座席表の有効活用について、一層の研究を深める必要がある。

○聴き方や話し方の指導に力を入れる必要がある。上手な聴き方・話し方は、生涯学習のベースになり、思いやりの心を育むことにつながる。

○机間指導は、個に応じ、クラスの実情に応じて考えていく必要がある。

9 認め合い、支え合い、励まし合える関係づくりの実践

教師一人一人が、自らの教育実践を振り返りながら2年次は15例、3年次は14例の実践事例を書いた。特に、「この子」と

- ・ 具体的にどのようにかかわったのか。
- ・ かかわってみて何が分かったのか。
- ・ かかわってみただけ、まだよく分からないことは何か。

などについて、教師と児童との関係づくりの実践を振り返ることを通して教師の児童を見る眼を養い、研究副主題である「子どもの不安や悩みを受けとめ、共に生きようとする教師」に迫る実践に取り組んだ。

実践事例の具体的な内容については、諸事情により本稿では省略する。

10 保護者啓発（例）

○人権作文を活用した実践（例）

3年次も、2年生以上の児童全員が「人権作文」を書いた。児童が書いた作文に担任がコメントを朱書きしたものを保護者に読んでもらい、その感想を書いてもらった。

このことは、保護者に子どもの思いや願い、不安や悩みなどについて改めて理解してもらおうとともに、担任の思いも知ってもらう機会にもなった。また、親（保護者）の思いや願いを子ども自身を知ることもできた。

このような具体的なかかわりを通して、児童、保護者、教師の三者で支え合う関係が深まっていくものであると考えている。

＜保護者の声＞（一部）

- ・親の前では決して見られない子どもの姿が実にほほえましく、けなげで感動し、涙しました。友達と時にぶつかり合い、時に助け合い、相手の気持ちを思いやれる子に育っていった欲しいと思います。元気いっぱいこの字を見て、「よし、明日も子どもたちのために頑張ろう。」と勇気づけられました。
- ・子どもとの約束をつい忘れてしまったり、聞き流してしまったりしてしまう私ですが、どんな小さな約束でも必ず守って実行してくれるおじいちゃんのことを、こんなにも大好きだったんだと驚かされたと同時に、もっとちゃんと約束を守らなければと反省させられました。
- ・子どもが家の様子を見て、思ったことを書いていました。他の家と違うことをだんだんと気がついたのでしょうか。子どもがいつもおしゃべりをしたり、元気に笑顔でいてくれるので家族も安心しています。
- ・子どもが書いた作文を読んで、あの時のことを思い出し、またちょっと切なくなっていました。朝いやがる子どもの手を引っ張って学校に連れて行ったこと、泣いている子どもを後ろ髪を引かれる思いでおいてきたこと、私も大変でした。でも、親子共々それを乗り越えられたからこそ今があると思います。今では学校大好きな子に成長してくれました。
- ・自分の生活を振り返り、その中で周りの友達のことを考えることができよかったです。先生のおかげで、このような機会をつくっていただいたことをありがたく思います。まだまだ自分のことで精一杯のところがありますが、少しずつ周りのことに目を向けて、それぞれのよさを認められるようになっていってくれることを願っています。
- ・相手の気持ちを思いやってあげることは、とてもよいことです。でも、自分の気持ちも大事です。「イヤ」なことは「イヤ」と言える勇気も必要だと思います。これから先、いろいろな体験を通して、言えなかったことも言えるようになればいいと思います。自分の努力も必要だけど、本当に辛い時や苦しい時は、お父さんもお母さんも話を聞きます。
- ・子どもの思いを初めて知ることができました。名前に対しての戸惑いがあったこと、でもそれを嬉しく思い誰に何を言われても大事に生きていくと読んだときは、涙があふれました。名前の通り生きて欲しいと願います。
- ・子どもの作文を読んで、大事なことに気付かされました。親が思っている以上に親のことを思い、気遣ってくれていることを改めて感じ、子どものためにと思いながらもイライラし感情的に叱ったりして、大変なのは自分だけだと思ってしまっていたけれど、実は子どもたちの大きな優しさに支えられているから私も毎日頑張れるんだということに気付かされました。
- ・子どもが自分で解決できない時に、相談できる先生がそばにいてくださることにとっても安心しました。何かあった時に、一人でかかえこまず話しをしてくれる親子関係でありたいと思います。
- ・1行目を読んだときは、ショックでした。SOSに気付いてあげられなかったことです。しかし、何度か読み返していくうちに、子どもの強さに「ホッ」としました。自分で先生に相談に行き、解決できたこと。これからも、いろいろな壁があるでしょうが、それらも乗り越えて欲しいです。また、親としてサポートしてあげられるようにしていきたいです。

○PTA主催の「人権問題・同和問題講演会」の実施

3年次は「保護者及び地域への啓発とよりよい関係づくりの工夫、改善」を推進項目の1つに掲げた。そこで、PTA主催による「人権問題・同和問題講演会」を実施した。（社）みどり文化・スポーツ財団理事長（元足利市教育委員会教育長）の吉田哲也氏を講師に迎え、「人は人によって人となる」という演題で約2時間の講演会を行った。

「人は一人では生きていけない。みんなで協力し、励ましあって生きていく。」ことが大切であり、そこには偏見も差別もないことを確認した。

参加者は、本校の保護者のみならず、児童の祖父母や地域の方々など100名を超え、本校の教育理念や推進している取り組みなどを地域に発信するよい機会となった。

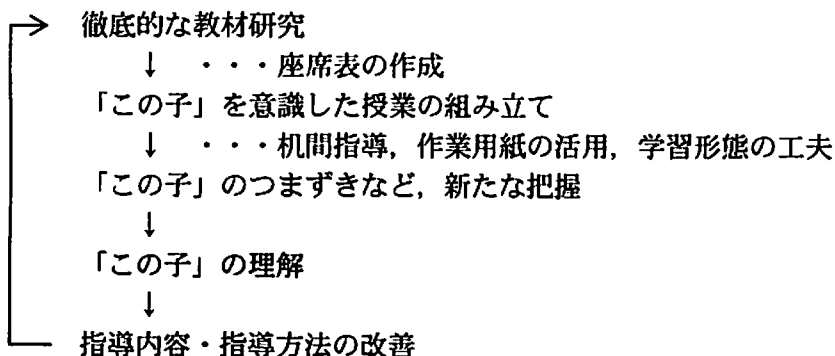
＜参加者の声＞（一部）

- ・改めて人と人とのふれあい、付き合いが大切であることを感じました。「子は、親の背中を見て育つ」と言われるように、まずは自分が子どもの良きお手本として日々の生活を送るように努力し、繰り返し繰り返し話をしている方向へ導いていってやりたいと思います。
- ・「相手の立場になって考える。」ということは、頭でわかっていてもなかなかできないものです。特に感情的になりやすい親子や家族の間では、後でいつも自分の主張ばかり言ってしまったなど、反省するばかりです。お話を聞いて、改めて肝に命じて毎日の生活の中で考えながら実践していきたいと思いました。
- ・子育てを終えて20年以上になりますが、何年たっても子育ての基本は同じだと思います。時代の波に乗り遅れないようにするのも必要ですが、進歩すればするほど子育ては丁寧に大事にしないといけないと痛感いたしました。今の忙しい若いお母さん方には是非聞いてほしいと思いました。
- ・親としての自分の在り方を考えさせられました。自己満足にはならぬよう、思い通りにしようと思わず、子どもを支えながら一人の人間として生きていくために必要なことを一緒に考えていきたいです。日々何となく時間が流れていってしまうなか、考え直す大切なお時間をいただきました。
- ・常日頃感じていたことを、講師の先生が代弁してくれたように感じました。親となった私たちの親が講師の先生の年齢と重なりますが、その親がもっと声を大にして伝えなければいけない気がしました。私たち親が、親になりきるその前に年配の方が生きるためにしてきた術をきちんと聞く耳をもって生活できたら、きっと子どもたちもよい生き方ができるのではないかと思います。

11 研究の成果と課題

＜成果＞

○児童一人一人のつまずきや悩みを把握し、わかる授業の実践



- ・授業を「指導内容・指導方法」と「人間関係づくり」の2つの側面から検証することで、児童を中核に据えた「わかる授業」の展開につながってきている。
- ・座席表を作成することで、児童一人一人を見ているつもりになっていた自分自身に気づくことができた。
- ・支援を要する児童を中心に据えて、意図的な机間指導について考えることができた。
- ・チェックポイントを意識した授業実践が行われた。

○認め合い、支え合い、励まし合える関係づくり

- ・休み時間など、児童と一緒に遊んだり話をしたり、児童とかかわろうと努めている。
- ・教師間で児童の話題が多くなり、学級・学年を超えて全教職員で児童を見ていこうとする態勢がつけられてきている。
- ・全児童との教育相談を通して、児童の新たな事実の把握に努めた。

- ・夏季休業中に実施した全家庭との教育相談により、家庭訪問以外でも保護者と直接話ができ、児童の家庭での様子や保護者の思いや願いを把握することにつながった。
- ・連絡帳、電話、家庭訪問など、保護者との連携を密にし、学校と家庭が一体となって児童を支えていこうとする態勢がつくられてきている。

○保護者啓発

- ・家庭訪問時及び学級懇談会において、担任が自らの言葉で本校の取り組みについて説明することができ、教師の人権に対する認識が深まった。
- ・児童の人権作文に対する保護者の感想が多数寄せられ、児童・保護者・教師で支え合う関係が深まった。
- ・PTA主催による「人権問題・同和問題講演会」が実施され、学校と家庭、地域が一体となって児童を育てていく環境づくりが始まった。

<課題>

- ・教師の同和問題に対する認識を深めながら、目の前にいる児童の人権にかかわる深刻な悩みについて語り合える関係を築いていく必要がある。
- ・人権教育は特別なものではなく、学校における全教育活動の基盤であることを意識していく必要がある。
- ・人権教育の日常化を目指していくことが大切である。
- ・保護者や地域に、学校が行っている人権教育を積極的に発信し、一層の理解と協力を得る必要がある。